

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会

令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日)

事業報告

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大は2023年5月には第5類となり、いよいよ活動も従来の活発さを取り戻してきました。

その象徴的な行事が、8月1日から12日まで韓国セマングムで開催された「第25回世界スカウトジャンボリー」です。157の国・地域から約43,000人が集い、日本からは1,563人の派遣団(うち京都連盟はスカウト44人、指導者ほか11人)が編成されました。

記録的猛暑のなか熱中症や感染症、埋め立て地という立地から台風襲来に備えて避難するなど厳しい状況にもかかわらず、全員無事に帰国しました。帰国時のスカウトの晴れやかな表情はたくましく乗り越えた達成感と、健康・安全面に尽力したスタッフの一致協力によるものです。さまざまな検討課題は生まれましたが、「日ごろの訓練の賜物」との誇りは今後の活力の元となるものでしょう。

京都連盟は重点施策「スカウト活動をより多くの仲間」、最重点目標「ワクワク自然体験あそびをすべての団で取り組もう」を掲げましたが、実施は28こ団・3地区で56%にとどまりました。参加した子どもに「また来たい」というプログラムを提供することはもちろんですが、①実施できない団が実施できるようになる、②より多くの参加者を迎えるための案内方法、③保護者にスカウト運動を理解していただく対策が喫緊の課題です。

成果として新規登録数は163人ありましたが、2024年度初めの登録数は前年比77人減の1,891人でした。この内訳は54団、198隊、スカウト957人(29減)、団委員・指導者934人(48減)です。

このようにスカウト人口は1983年以降、制服・おきて改正、女子の参画、ビーバー部門の発足等さまざまな改革も空しく一貫して減少してきました。翻って過去4年間のボーイ・ベンチャー部門(小学6年生から高校3年生)の進歩の実績は倍増の勢いがあります。

令和2年度 富士0・隼2・菊6人、技能章延べ100人

令和3年度 富士2・隼4・菊5人、技能章延べ149人

令和4年度 富士3・隼4・菊8人、技能章延べ169人

令和5年度 富士4・隼6・菊20人、技能章延べ190人

この兆候は、ビーバー、カブを経たスカウトがより高嶺を目指す青年へと成長する「進歩する自己研鑽システム」の証左と言えます。とくに83種目におよぶ技能章は文化・スポーツ・芸術・社会活動

と多彩な分野を網羅し、専門職による認証と激励の支援を広げながら、青年に「チャレンジする資質」を育てています。社会とスカウトがつながる仕組みとして、まだまだ開発の余地があります。

スカウト・指導者は家族的な結びつきを大事にしながら、“Creating a Better World”を合言葉に、日ごろのスカウト活動が、社会を明るくする運動となることを目指して、社会の期待に応える所存です。

振興会賛助会員のご篤志により様々な活動を支援することができました。厚く御礼申し上げます。当該会計年度は、維持会費収入が 2,100 千円となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・使途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

－ 事業費として、助成金総額 1,800 千円を支出した。

京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。

－ 「第 25 回世界スカウトジャンボリー」には、助成金総額 1,800 千円のうち、事業費 500 千円を支出し、本書冒頭に記載の通り実施された。

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回
期日	6 月 18 日	10 月 1 日	9 月 24 日	10 月 15 日	11 月 5 日	3 月 2 日
会場	宇治市 中央公民館	右京 ふれあい 文化会館	洛西 境谷会館	知恩院 和順会館	中丹勤労者 福祉会館	下鴨神社 公文所
参加者	18 人	定員に満た ず中止	8 人	25 人	8 人	12 人

(参考) ウッドバッジ研修所・実修所等の実施状況

名称	WB 研修所 スカウトコース 京都第6期	課程別研修		WB 実修所 CS 課程 第178期
		BS 課程 京都第3回	BVS 課程 京都第4回	
期間	5月4日～7日	7月2日	10月29日	9月15日～18日
会場	静原キャンプ場	京都テルサ	京都テルサ	静原キャンプ場
参加者	12人	16人	5人	13人

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場:京都市左京区広河原尾花町 27 番地

(当法人所有:山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
1. 山開き	4月16日	15人	イベント委員会
2. 行事	5月13日	14人	京都西ライオンズクラブ
	6月8日	15人	//
	8月6日	10人	//
3. 夏季整備作業	7月16日	16人	イベント委員会
4. 隊キャンプ	8月16日 - 20日	18人	京都第19団、38団合同
5. 隊キャンプ	8月26日～27日	4人	京都第72団
6. 冬ごもり整備作業	11月26日	12人	イベント委員会
合計	14日	延べ104人	

事業実績

広河原野営場建物の減価償却費 80,730 円が主な費用実績である。

(オ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について利用状況がはかばかしくなく、当面見合わせる。

(3) 青少年指導者養成のためのプログラム企画運営事業:「連携」

(ア)趣旨

ボーイスカウトの指導者が、テーマを設けて研修する催しに青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、オープンに一般の参加者も迎え、セミナー等を実施するものである。

(イ)事業実績

－ 指導者全体ワークショップ 2023 10月28日(土)～29日(日)スカウト活動に役立つ技能を実習を通じて学ぶ。

静原キャンプ場にて、54人参加

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業

:「イベント」

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

－ 韓国京畿南部連盟派遣

姉妹連盟提携をしている韓国京畿南部連盟へ派遣を行い、両都市の友好を高める。

1月4日～7日、大韓民国・水原(スウォン)及びソウル周辺

参加者:スカウト9人・指導者4人 計13人

－ ジャンボリー・ホン・ジ・インターネット(JOTI)／ジャンボリー・ホン・ジ・エア(JOTA)

世界スカウト機構が主催する公式国際行事で、10月20日～22日に全世界でインターネットやアマチュア無線を利用して、スカウト同士が国境を超えた情報交換と友好を深めた。

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

社会参加事業として、各種の奉仕活動を展開した。

－ 全国防災キャラバン

- － 日本連盟提供、文部科学省・京都府/市教育委員会後援事業「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」に各団・地区が独自のプログラムで展開した。全46事業を実施し一般児童親子を受け入れ、さまざまな体験活動を提供した。
- － 皇后杯第42回全国女子駅伝1月14日、安全な運営のためにコースの自主整理員として奉仕した。
- － 天皇杯第35回全国車いす駅伝競走大会3月10日、安全な運営のためにコースの自主整理員として奉仕した。

(ウ) 環境まち美化活動支援

例年各団が春と秋に奉仕してきた「みどりの募金」活動は各団で実施した。

京都市「まち美化運動」に協力の一環として、日本連盟提供プログラム「プラごみバスターズ」によりプラスチックごみ削減に協力した。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

(ア) ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

- ① 一般の子どもや保護者が参加可能な団主催「スカウト体験と説明会」や地区主催「ビーバーランド」「カブラリー」等、スカウトの日(ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日)等について、ホームページを開設しているが十分に機能が果たせていない点は改善の余地がある。
- ② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行った。
- ③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼した。
- ④ OB の復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページを通じて公募した。

(イ) 事業費実績

主な事業費は、ホームページ運営改革費 132,000円を支出した。

(6) 財源の確保(維持(賛助)会費の入金状況)

維持(賛助)会費の入金内訳は以下の通りです。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
維持会費収入額	2,420 千円	2,310 千円	2,220 千円	2,220 千円	2,100千円

当該会計年度は、維持(賛助)会費収入が 2,100 千円と前年度比 120 千円減額となりました。
引き続き、役員の方には、21世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、
地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように
努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。